

体育教員が日本について英語で教えてみたら。 Vol.9

今回はタイトルから少しズレますが、偶然素晴らしい出会いをしたので、それを報告したいと思います。

先日、友人の誕生日会に招待され、家族で向かいました。行ってみると大勢の大人や子どもが集まり、友人の誕生日を祝っていました。そこに7歳の男の子がいて、長男も7歳だったので意気投合。サッカーで仲良く遊び始めました。少し離れたところで子どもを見守っている父親らしき男性がいたので、私も近寄り、自己紹介をしました。

「Which part of Japan are you from? 」と男性。

「I am from Hyogo. Hyogo is actually the sister state of Western Australia.」と私。

「I know. (兵庫が姉妹都市なの知っているんだ) I used to live in Kobe (へえ、偶然)」と思った矢先に聞こえた言葉に衝撃。

「I studied abroad to Nagata high school 30 years ago. (え??)」思わず、聞き返ししまいました。

30年前に彼の通っていた Greenwood 高校から日本語を勉強している20名の生徒が日本に短期留学することになりました。期間は5週間。パースの姉妹市である鹿児島市や Greenwood 高校の姉妹校である直方高校など様々な場所に分かれて交換留学をしたそうです。しかし、最後の4人の受け入れ先がなかなか見つからず困っていたところ、長田高校が3週間という期間で受け入れを決めたそうです。西オーストラリア州と兵庫県が姉妹都市であることがきっかけで、実現したのです。彼の他3名が長田高校に、その代わりに長田高校から4名が Greenwood 高校に交換留学をしました。

30年前というとちょうど39~41回生くらいの時でしょうか? 1987年と言っていました。長田生に交じって英語や数学の授業を受けたこと、国語、歴史などの教科は難しかったので別室で授業を受けたこと、ホストファミリーのこと、神戸・三ノ宮の町、いろんなことを教えてくれました。体育で周回走を走ったのかと聞いたのですが、1~2月にかけて留学したので寒くて走っていないと言っていました(そんなことはないはず。きっと彼らは別メニューだったのでしょう)。特に印象に残っているのは、全校生徒の前で日本語で挨拶をさせられたことだそうです。

僅か3週間という短い期間ではあったものの、彼にとっては強烈なインパクトだったようです。1987年は、生徒の交換留学が始まって2年目くらいの年だったそうで、ほとんど日本に行った高校生がいない中で、貴重な経験ができたと言っていました。長田の先生のことやオクフジさんというホストファミリーのことを熱く語ってくれました。こうして30年の時を経て、パースで長田高校を通して繋がりが会える、不思議な縁に恵まれた一日でした。

